

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業（センター利用促進事業）

「和紙ちぎり絵教室～来年の干支（丑）～」を開催しました。



令和2年10月22日（木）に、和紙ちぎり絵しゅんこう認定講師の石川清子さんを講師にお迎えし、一般の方を対象に「和紙ちぎり絵教室～来年の干支（丑）～」を開催しました。来年の干支である丑を色紙に作りました。

はじめに、色紙に図柄を写しました。チャコシート（複写紙）とツイントレーサーという道具（インクの切れたボールペンでも代用可能）を使って台紙に型紙を写し取ります。チャコシートには表と裏があり、使い方を間違えると、せっかく描いた線が台紙に全く写っていないかったというハプニングもありました。

次は、和紙にパーツごとの型を写す作業です。見本の作品と、和紙の模様を見ながら型紙を当て写していきました。型を写す際には紙の目を見ながら型を取ってやるのが大事だそうです。和紙には「紙の目」があり縦目、横目があり、縦方向に型をとると和紙をちぎる際にスムーズにちぎることができるそうです。横方向に型をとると、紙の繊維の流れを断ち切ることになるので、堅くちぎりにくくなるそうです。

そして、いよいよ和紙をちぎる作業です。枠線をツイントレーサーで1回なぞっておくとちぎりやすくなり、和紙は手前にひねるようにちぎるとちぎりやすいようです。手漉きの和紙の風合いと美しい色彩をどう活かすかなどを考えながら和紙をちぎっていきました。うまくちぎれると和紙が毛羽立ち、和紙の細かい繊維で丑の尻尾などはリアルに表現できていました。笹の葉は、手でちぎる部分とハサミで切る部分があり場所によって切り方を変えていました。パーツによっては、はさみを使って鋭い曲線にしたり、梅の花の色合いも自分の好きな色合いにもできたりするので、オリジナルの作品が作れるのも楽しみの1つになりました。苦勞されていたのは目をちぎる作業のようでした。目一つで丑の印象が随分と変わってしまうので、見本の作品に近づけるよう苦心されていました。

最後に、ちぎった和紙にのりをつけて台紙に貼っていきます。ちぎった和紙の毛羽を指先で整え、貼る位置を確認しつつ台紙に貼りつけていきました。のりはスティックのりではなく、工作用のでんぷんのりを使います。

今回講師が作品を作るのに必要な道具はすべて準備してくださいましたので、受講生は手ぶらで参加できた講座でした。初めてちぎり絵をされた方が多く、残念ながら時間内に完成できなかった方もいらっしゃいました。次回実施の際は、講座時間を少し長くして実施をしたいと思いました。お正月を迎える準備の1つが出来た講座になりました。

